

工学研究科 学位取得について

I. 博士前期課程（修士）

1. 学位授与の要件

工学研究科では、次の判定基準に基づいて修士の学位審査を行い、適当と認められる者に対して、修士（工学）の学位を授与する。

- (1) 学位授与方針に基づき、当該専門分野について高度の専門知識を有するとともに、専門家として社会に貢献しうる能力を有していること。
- (2) 必要な修業年限以上在籍し、所定の単位を修得し、研究指導を受けた上、修士論文を提出し、その審査及び試験に合格すること。

2. 学位論文審査基準

2.1. 審査体制

学位論文の審査は主査1名及び副査2名以上からなる審査委員会において行われる。

2.2. 評価項目

- (1) 研究課題の設定と研究方法の選択が妥当であること。
- (2) 研究課題に関する先行研究の調査が十分に行われ、それらに対する評価と引用が適切であること。
- (3) 課題設定から結論に至る論旨展開が論理的であり、妥当であること。併せて、得られた結果の解釈が妥当であるとともに明確であること。
- (4) 研究結果は、当該分野において新規性、有用性を有すること。
- (5) 学術論文としての体裁が妥当であること。

2.3. 評価基準

上記の項目をすべて満たしていること。

II. 博士後期課程（課程博士）

1. 学位授与の要件

工学研究科では、次の判定基準に基づいて博士の学位審査を行い、適当と認められる者に対して、博士（工学）の学位を授与する。

- (1) 学位授与方針に基づき、当該専門分野において、新しい分野を開拓し、独創的な研究を遂行しうる能力を有するとともに、リーダーとしての強い責任感を有していること。
- (2) 必要な修業年限以上在籍し、所定の単位を修得し、研究指導を受けた上、博士論文を提出し、その審査及び試験に合格すること。

2. 学位論文審査基準

2.1. 審査体制

学位論文の審査は主査1名及び副査2名以上からなる審査委員会において行われる。

2.2. 評価項目

- (1) 研究課題の設定と研究方法の選択が妥当であること。
- (2) 研究課題に関する先行研究の調査が十分に行われ、それらに対する評価と引用が適切であること。

- (3) 課題設定から結論に至る論旨展開が論理的であり、妥当であること。併せて、得られた結果の解釈が妥当であるとともに明確であること。
- (4) 研究結果は、当該分野において新規性及び国際的、学術的な意義を有すること。
- (5) 学術論文としての体裁が妥当であること。

2.3. 評価基準

上記の項目をすべて満たし、審査委員会までに筆頭論文1編を含む論文3編以上が明確な査読を有する当該分野の学術誌に掲載、または掲載可となっていること。あるいは審査委員会までに筆頭論文1編を含む論文2編以上が明確な査読を有する当該分野の学術誌に掲載、または掲載可となっていること及び国際会議論文1編以上（筆頭論文1編を含む）が掲載、または掲載可となっていること。

Ⅲ. 博士後期課程（論文博士）

1. 学位授与の要件

工学研究科では、次の判定基準に基づいて博士の学位審査を行い、適当と認められる者に対して、博士（工学）の学位を授与する。

- (1) 学位授与方針に基づき、当該専門分野において、新しい分野を開拓し、独創的な研究を遂行しうる能力を有するとともに、リーダーとしての強い責任感を有していること。
- (2) 博士論文を提出し、その審査及び試験に合格すること。

2. 学位論文審査基準

2.1 審査体制

学位論文の審査は主査1名及び副査2名以上からなる審査委員会において行われる。

2.2. 評価項目

- (1) 研究課題の設定と研究方法の選択が妥当であること。
- (2) 研究課題に関する先行研究の調査が十分に行われ、それらに対する評価と引用が適切であること。
- (3) 課題設定から結論に至る論旨展開が論理的であり、妥当であること。併せて、得られた結果の解釈が妥当であるとともに明確であること。
- (4) 研究結果は、当該分野において新規性及び国際的、学術的な意義を有すること。
- (5) 学術論文としての体裁が妥当であること。

2.3 評価基準

上記の項目をすべて満たし、審査委員会までに筆頭論文2編を含む論文5編以上が明確な査読を有する当該分野の学術誌に掲載、または掲載可となっていること。